

# 発行にあたって

日ごろは、全国牛乳容器環境協議会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。紙面からで恐縮ではありますが、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は7月の西日本地区での集中豪雨、夏から秋にかけて多くの台風の接近や上陸に加え、9月に発生した北海道胆振東部地震とそれに伴う北海道地区の大規模停電など、天災による直接・間接の大きな被害を受けた年となりました。一方、米国をはじめとした自国優先主義政策や米中の貿易での対立など、国際経済においても先行きが見通しにくくなっております。

国際的な環境問題としては、海洋ごみの問題がマスコミで取り上げられ、昨年6月に行われたG7シャルルボワ・サミットでは「G7海洋プラスチック憲章」に日本と米国は署名しませんでした。本年、日本で開催される予定のG20で日本として、前向きな資源循環政策を提示することになると思います。主にプラスチックの問題ではありますが、紙パックについても、私たちは「一人ひとりが環境を考え、行動していく社会」を目指して、紙パックリサイクルの普及・拡大に向けた取組を続けていかなければなりません。

紙パックリサイクルの指標である紙パック回収率は、調査開始以来、順調に向上してまいりましたが、ここ数年は伸び悩み傾向となり、2017年度は前々年度と同程度となっています。

私たちは、回収率を高める対応として、各委員会制度の運営充実と専門委員の活動に注力してまいりました。総務委員会では、自治体の環境担当部署を訪問し、より効果的な広報活動や回収の仕組み作りに向けた意見交換、消費者啓発のための協働取組などを行っています。広報委員会では、継続してホームページの改修や展示用パネルの内容充実を図り、またごみ袋へのリサイクル情報掲載やAR(拡張現実)技術の活用など、新しい手法を用いて紙パックリサイクルの周知活動に取り組んでいます。イベント委員会では、6月のエコライフ・フェア、12月のエコプロへの出展、地域の大規模量販店における紙パックリサイクルイベントなどにより、多くの市民の皆様に、分別排出・回収の呼びかけを行っています。



全国牛乳容器環境協議会

会長

城端 克行

また、自治体との連携による紙パックリサイクル講習会、全国の小学校への出前授業も継続開催して、小学校の環境教育の中で「大事な紙資源、もったいない」を学習できる機会としています。支部組織委員会では、全国の会員がかかわる地域の環境イベントにおいて、来場者に紙パックリサイクルを啓発するための展示・クイズパネルなどを利用いただける体制を整えた結果、恒例行事として定着したイベント件数が増えています。ミルク段ボール製紙パック回収ボックスの希望拠点への配布も継続しております。

その他の取組のご紹介を含め、1年間の活動内容を総括してここに「2019紙パックリサイクル年次報告書」をまとめましたので、是非お目通しいただき、ご意見・ご指導をお寄せいただければ幸いです。

市民団体の「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」様をはじめ、様々なステークホルダーの皆様との協働も進めてまいります。会員の皆様におかれましても、今年にも増して更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2019年1月

# 回収率向上アクションプラン

全国牛乳容器環境協議会(以下、容環協)では、「2020年度に回収率50%以上」を目標として掲げ、紙パックの回収率向上を目指しております。

具体的な取組は以下のとおりです。

**《目標》**  
紙パック回収率 **50%以上**  
2020年度

- 自然の恵みを大切に、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地球環境を継続的に維持していくため、紙パックリサイクルに係るすべての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進します。
- 再生可能な資源である紙パックを良質な資源として有効に活用することにより、資源の節約と環境負荷の削減を図ります。紙パックのリサイクルを通して資源の大切さを伝える活動を展開します。

### 【主な取組】

- 1.回収率を高める場づくり
  - ①ステークホルダー会議などの充実
  - ②地域特性に応じた地域会議の開催とフォロー
  - ③地域の環境活動(紙パックリサイクル講習会の開催(全国牛乳パックの再利用を考える連絡会(以下、全国パック連)と連携))などへの参加と情報共有

- 2.様々な生活の場における回収促進
  - ①生活の場に根ざした回収力向上(紙パック回収ボックスの提供、環境メッセージ広告を紙パック商品に掲載する環境キャンペーンの実施、工場見学者に対する紙パックリサイクル啓発の実施)
  - ②牛乳1000ml以外(500ml、200mlなど)の回収促進
  - ③紙パックとしての分別の促進
  - ④再活用から資源価値の高い再生紙へ
  - ⑤屋外や店舗で飲まれる紙パックの回収促進
- 3.教育や学習の場における活動の促進
  - ①教育・学習とリサイクルの協調(小学校での牛乳パックリサイクル出前授業の開催(全国パック連と連携)・牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールへの協賛)
  - ②学校給食用牛乳パック(以下、学乳パック)の回収率向上
- 4.コミュニケーションの充実
  - ①ステークホルダーとの対話と協調
  - ②再生品の利用促進
  - ③様々なイベント等への参画
  - ④インターネットなどによるコミュニケーション(容環協HP・牛乳パックン探検隊HP)
  - ⑤国際的連携の推進



# CONTENTS

## 活動トピックス

- 「プラン2020」……………2
- 環の縁結びフォーラム……………3
- 紙パックリサイクル促進地域会議……………4
- 製紙メーカー意見交換会……………5
- リサイクル促進意見交換会……………6
- 紙パックリサイクル講習会……………7
- 牛乳パックリサイクル出前授業……………8
- エコライフ・フェア／エコプロ2018……………10
- 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール……………11
- その他の活動……………12

## 活動報告ダイジェスト

- 2017年度 紙パック回収率……………14
- 2017年度 紙パックマテリアルフロー……………16

## 2018年度活動報告

- 小売事業者のリサイクル状況……………18
- 福祉施設のリサイクル状況……………19
- 市町村回収・集団回収の状況……………20
- 学校のリサイクル状況……………22
- 製紙メーカーのリサイクル状況……………23
- 紙パックのリサイクル学……………24
  - 紙パックを取り巻くダブル循環……………24
- 全国牛乳容器環境協議会の概要……………26
  - あゆみ……………26
  - 容環協の発行物……………28
  - 会員一覧……………29



## 「プラン2020」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

アクションプランに基づいて、4つの委員会で活動を推進しております。2018年の主な活動は以下のとおりです。

### 1.総務委員会

#### (1)回収力を高める場づくり

様々なステークホルダーにご参加いただき、2月に東京で「飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会」、10月に大阪で「紙パックリサイクル促進地域会議in京阪神」を開催しました。回収率向上に向けた取組事例、紙パックリサイクルの現状と課題について情報交換・意見交換を行いました。

#### (2)様々な生活の場における回収促進

「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」の補完として、古紙原料問屋及び製紙メーカーへの調査を実施しました。また注ぎ口付き紙パックリサイクルの課題について議論を進めました。

#### (3)教育や学習の場における活動の促進

学校を核とした回収力強化の一環として、引き続き出前授業時に学乳パック回収についてヒアリングを行っています。

#### (4)コミュニケーションの充実

「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」の補足資料として、インターネットによる「家庭における紙パックの再活用の実態調査」の結果を容環協のホームページに掲載しました。

### 2.広報委員会

#### (1)普及啓発事業

##### ①インターネットメディアの活用

スマートフォンによるAR(拡張現実)を応用した新しい啓発コンテンツを制作しました。

##### ②新規広告媒体の活用

町田市のごみ袋外装に紙パックリサイクル啓発の広告を掲出しました。

##### ③「紙パックリサイクルほんとはなし」の改訂

全国パック連と協力して新しい紙パックリサイクル活動事例紹介を盛り込み、端切れのリサイクル推進も訴えました。

##### ④年次報告書2019の企画・編集に取り組みました。

### 3.イベント委員会

#### (1)紙パックリサイクルを活用した環境教育と普及啓発

①全国パック連と協働して小学校9校で出前授業を開催、全国パック連・平井代表の講義や手すきはがきづくりを通して、計623名の児童に環境教育を実施しました。また、同様に自治体や店舗6か所で行ったリサイクル講習会を開催しました。

②エコライフ・フェア2018、エコプロ2018など地域環境フェアに出展しました。

#### (2)牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール

応募の少ない6県の小学校全校と札幌市の全校にDMを送り参加を促すなど、裾野拡大に努めました。

### 4.支部組織委員会

#### (1)地域の環境活動などへの積極的支援及び参加

①容環協会員の地域事業所が容環協の各種パネルや冊子などを活用して独自に紙パックリサイクル啓発活動を実施し、自治体などの地域の環境活動にも積極的に参加しました。

②自治体や地域の乳業協会などと連携し、啓発ツールの貸し出しや再生品(トイレトペーパー)提供を行いました。クイズの回答用紙裏面でのアンケートは継続実施し、得られた情報を調査の参考としました。

#### (2)メールマガジン発行と拡大

①特色のある地域の取組を掲載し、他地域への水平展開を図り、委員会の支援ツールについても継続して情報発信し活用を進めました。

②容環協のホームページに掲載するとともに、今まで地域会議など容環協主催の会議に参加いただいた方にもお送りするなど、配信先拡大をしてきました。SNSなど新たなコミュニケーションツールが拡大する昨今、メールマガジンに替わる新たな啓発手段の模索を始めました。

国、自治体、NPO、関連企業などが参加し、古紙市場における雑がみ及び紙パックの現状と今後について情報交換がされました。

#### 【環の縁結びフォーラム】11月29日

全国パック連が主催、容環協が協賛する「環の縁結びフォーラム」及び全体交流会がTKP八重洲カンファレンスセンターにて開催されました。今回のテーマは「古紙市場における雑がみ及び紙パックの現状と今後」で、国、自治体、NPO、関連企業など延べ65名の方が参加しました。

主催者の全国パック連・平井代表より、牛乳紙パックは、1985年に市民運動からリサイクルが開始され、有用な資源として認知され回収されてきたが、さらなる回収率向上のための課題としては、①雑がみ、本、雑誌の回収に混入している紙パック、②紙パックの利便性の追求による注ぎ口付き形状の増加、③海外への紙類の輸出環境の変化、であり、これらの古紙市場や紙パックの現状と今後について、情報交換を通じてこれからのリサイクル方法の課題と対策を考える機会にした、との開催趣旨説明がありました。

来賓の容環協・田上副会長より、行動計画「プラン2020」に従い紙パックのリサイクルが継続的に進むよう活動していますが、今日のフォーラムは、全国パック連と長年関わってこられた先輩方や、各方面で連携されている皆様と交歓できる大切な機会であり、「ものの大切さ」や「もったいない」の言葉で繋がる「環(わ)」がさらに強固となる場と思いますと、挨拶がありました。

パネルディスカッションでは、経産省、自治体、古紙問屋、

再生紙メーカーがパネリストになりました。経産省から、古紙主要三種は、新聞、雑誌、段ボールで、飲料紙パックは「模造・色上」に分類されているなど、説明がありました。

自治体からは、少子高齢化が進行し、子ども会、PTA、登録団体数が減少し、集団回収量も減少傾向であるが、分別を徹底するためにはリサイクル排出方法を周知・啓蒙することが大切であると説明がありました。

古紙問屋からは、海外でのミックス古紙輸入禁止の影響で、国内で古紙、紙パックの分別が必要不可欠になってきているが、古紙原料の中で、1%しかない紙パックの回収率が約35%なのは、素晴らしいことであるとお話がありました。

再生紙メーカーからは、注ぎ口付き紙パックは、製紙工場では異物となるために好ましくないが受け入れているものの、今以上拡大していく場合は対応できなくなる可能性もあるとの報告がありました。

工場見学に来た児童は、牛乳パックからトイレトペーパーなど紙製品が作られることを、ポスターや作文に驚きをもって書いており、牛乳パックリサイクルは資源循環の分かりやすいイメージが出来ている、など、様々な現状、課題の報告が活発になされました。

まとめとして、容器の変革、環境情勢変化、少子高齢化などさまざまな社会要因変化の中、リサイクル向上のためには、正しい紙パック分別排出方法を周知・啓蒙・徹底することが重要であること、紙パックそれぞれで関わる人たちの「情報の環、心の環」が大事なことである、と結ばれました。続く全体交流会では、参加者間で活発な情報交換が行われ、盛況のうちに散会となりました。



主催者代表 全国パック連 平井代表



パネルディスカッションの様子

## 紙パックリサイクル促進地域会議

## 製紙メーカー意見交換会



各地域での情報交換を通じて、  
リサイクルの促進を図る  
地域会議を開催。

### 紙パックリサイクル促進地域会議 in 京阪神

- ◆開催日 2018年10月24日
- ◆開催地 大阪市
- ◆参加者 経産省、農水省、自治体、小売業者、市民団体、乳業メーカー、容器メーカー、回収業者など計48名

#### 【主な報告や問題提起】

- 来賓挨拶として、経産省より、プラスチックの海洋汚染が世界的問題となっているが、様々なごみを減らすこと、環境への対応が重要な課題であり、紙パックは一手間掛けることにより有用な資源として定着していると紹介されました。農水省からは、リサイクル法施行から21年、紙パック回収が定着したのは地道な努力のためとの話がありました。
- 基調報告では、容環協より、紙パック回収経緯、回収率の推移と課題、主な活動内容として、紙パック環境特性を正しく伝え、行動する人を増やすため、出前授業、リサイクル講習会、新たなコミュニケーションの充実に力を入れているなどの紹介をしました。
- 事例紹介では、大阪市より、家庭系より事業系ごみが多いこと、ごみの量は1991年をピークに減少しているが、近年は減少傾向が頭打ち、紙パックについては一手間掛けることを市民にどう伝えるかの課題があるとの話がありました。神戸市では、古紙類は、行政回収は実施せず、集団回収



地域会議in京阪神の様子

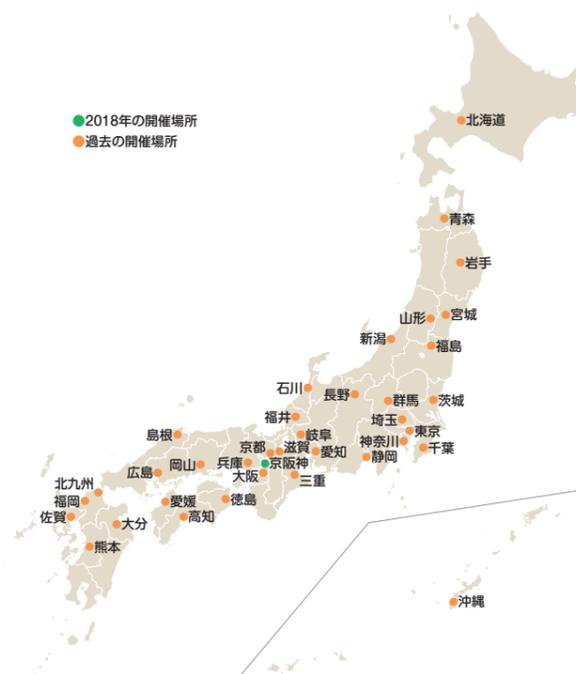
を市として支援しており、団体数は増加しているが、回収量は減少傾向であることが報告されました。宇治市では、紙パックは拠点回収を行うようになってから回収量が増加し、リサイクル推進キャラクター「パックン」が2005年より登場し、子どもたちに大人気でリサイクル活動に活躍しているとの紹介がありました。

- 情報交換会ではまず容環協から、各市の資料分析から推計すると、全国で10万トン以上の紙パックが可燃ごみとなり、更なる取組が必要であるとの認識が示されました。

また小型紙パックの回収状況、注ぎ口付紙パックの排出方法についても各市の現状が報告されました。製紙会社からは、プラスチックの混入については、現状程度では対応できるが、現状設備では、これ以上の増加は対応に苦慮するとの話がありました。そのほか、プラごみ類や、紙パックの輸出に関する情報提供もなされ、容環協としては国内循環の促進をお願いしました。その他、様々な問題や課題が提起されました。

最後に、容環協から、紙パックの啓発活動に容環協を活用していただきたいことをお願いし、紙パックのリサイクルを促進するためには、関係者の協力と情報共有が重要であることを確認して閉会となりました。

#### 地域会議の開催場所



紙パックリサイクルの  
現状と課題が  
明らかになりました。

#### 【紙パックリサイクルに関わる製紙メーカー意見交換会】

7月10日に全国パック連と協働で、静岡県富士市の「ふじさんめっせ」会議室にて、紙パックをリサイクルして活用している製紙メーカーや古紙回収業者などを招いて、計28名で開催しました。この意見交換会は、紙パック回収量アップを目的に、受け皿となっている製紙メーカーから忌憚のない意見を直接聞き取り、今後の紙パックリサイクル活動に反映させていくことを目的に毎年開催しているものです。

最初に容環協から、2016年度の紙パック回収量は前年度比で若干増加したものの、ここ数年は頭打ちの状態であり、回収量を増やしていくために啓発活動の継続と新たな回収ルートの発掘支援に力を入れていく旨の報告を行いました。

回収した紙パックの入荷量に関しては、なかなか十分な量を集めることはできない、中国のミックス古紙受け入れ中止の影響はあまり感じられない、との報告がありました。



製紙メーカー意見交換会の様子

また、市場のニーズにより注ぎ口付きの紙パックが増加しており、乳業メーカーなどではホームページで開き方を説明したり、お客様相談窓口を通して説明したりして、リサイクルに支障が出ないように対応しています。製紙メーカー側では、注ぎ口が無い紙パックの方が使用には適しているが、ある程度の量であれば致し方無いという考え方が主流でした。

一方、一部の店頭で同時に回収しているアルミ付き容器では未晒原紙を使用しているとの報告もありました。

2018年度に製紙メーカーの紙パック受入調査を容環協が委託した企業より「容器メーカー、中身メーカー、製紙メーカーと立場の違う3者が意見交換する会は、他の容器では見られない。現実的な議論が為されており、感心した。」との挨拶がありました。



ふじさんめっせ

# リサイクル促進意見交換会

# 紙パックリサイクル講習会



関係団体が多数集い、  
リサイクルの現状と課題を  
話し合う貴重な場に。

## 【第30回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2月8日に乳業会館にて、環境省リサイクル推進室、農水省食品産業環境対策室、自治体関係者、流通関係者、市民団体、古紙回収業者、製紙メーカーなど計42名出席のもと、開催しました。

最初に容環協の青山会長から紙パック回収の歴史、2016年4月に策定した「プラン2020」の目指すところと3点の行動目的などを説明し、2点目の環境特性を正しく伝える、3点目の環境を考え行動する人々を増やす、ということについて皆様方より忌憚のない意見をいただきたいとの挨拶がありました。続いて農水省から、紙パックを開いた時に記載してある「リサイクルありがとう」の言葉についてこのような消費者とのコミュニケーションがリサイクルの促進、回収率の向上につながっていくのではないかと、リサイクルすることでごみの削減にもつながることを伝えながら、回収率向上の努力に期待する、との挨拶がありました。

次に取組状況報告として容環協から、活動内容と2016年度の回収率の概要説明を行いました。使用済み紙パックには、廃棄前にまな板などに再利用されるものや他の古紙として回収後に紙パックとして選別、資源化されながらも回収量に計上されないものがあり、これらの扱いについて継続検討していく旨の報告を行いました。続いて4つの専門委員会の活動状況

を各委員長から報告しました。

調査会社からは、2016年度の紙パック全体の回収率は44.3%と前年度より1.2ポイント増加したことに関する詳細内容の説明を行いました。また新たに実施した家庭における紙パック再活用の実態についてのインターネット調査結果の概要報告を行い、再活用した方は12.7%に及んだ旨をお伝えしました。

後半の意見交換では、注ぎ口付き紙パックについての意見が出されました。自治体からは、注ぎ口は切り取ってほしいと周知してきたが、昨年そのままリサイクルできますという容器が出てきて戸惑っているとの意見がありました。これに対して容器メーカー、乳業メーカーからは注ぎ口付き紙パックについて製紙メーカーに問合せを行った結果、皆様リサイクル可能ということを確認し、取り扱いの表記についても検討を継続しているとの報告がありました。古紙問屋からは注ぎ口付き紙パックが入ると製紙メーカーから苦情が来るとの意見がありましたが、注ぎ口の除去装置があるので問題はないと答えられた製紙メーカーもありました。

高齢化社会を迎え、消費者の利便性を考えると注ぎ口付き紙パックは今後増加していくことが予想され、紙パックの回収に携わるステークホルダー間のコミュニケーションがよりいっそう重要になってくると考えさせられる意見交換となりました。



主催者挨拶 容環協 青山会長



ステークホルダーの方々

現状を知っていただき、  
実際にリサイクルを体験する  
楽しい講習会です。

## 【埼玉県 さいたま市】7月14日

さいたま市の講習会は2018年4月にオープンした「さいたま市子ども家庭総合センター あいばれっと」で開催、児童18名、保護者15名、幼児1名が参加しました。全国パック連・平井代表より、牛乳パックリサイクルが世界でも他に例のない誇るべき活動であることなどのお話の後、手すきはがきづくりを行い、パネルなどにより紙パックリサイクルについて復習しました。

## 【東京都 西東京市】7月24日

西東京市のイベント「夏休み自由研究2018」において、同市では10回目の講習会を開催、小学校3～6年生の児童43名と保護者14名が参加しました。クイズを交えた講義やDVD視聴後、牛乳パックの手開きを体験し、手すきはがきづくりでは、模様となるすき込み用材料を丁寧にのせ、完成した世界で1枚のオリジナルはがきを手に記念撮影をしました。

## 【埼玉県 朝霞市】7月25日

今回の講習会は、朝霞市で毎年行われる夏休みの3R（リデュース、リユース、リサイクル）啓発事業に牛乳パックリサイクルを取り入れたもので、小学生34名と保護者10名、幼児5名が参加しました。県内にはユネスコ無形文化遺産に登録された、手すき和紙「細川紙」がある土地柄のためか、和紙の手すきを体験済の子どもたちも厚くて丈夫なはがきが牛乳パックからできることに驚いていました。



平井代表の講義

## リサイクル講習会講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」  
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・体験 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」  
「牛乳パック手開き」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

## 【神奈川県 相模原市】7月31日

ごみの減量化キャラクター「分別戦隊シゲンジャー銀河」が活動する相模原市は毎年、夏休みに全国パック連・容環協と共同でリサイクル体験教室を開講しています。今年は橋本台リサイクルスクエアにて、小学生25名、保護者及び未就学児19名が参加、学校で牛乳パックの手開きを実践している子どもたちが手間取る保護者に手ほどきする光景も見られました。

## 【東京都 中央区】8月25日

中央区立築地社会教育会館において、児童8名、保護者7名、個人1名、幼児1名が参加し講習会を開催しました。講義中のクイズでは子どもたちが元気に手を挙げて答え、注ぎ口付き紙パックの手開き実演も興味深そうに見入っていました。児童も保護者も楽しくつくったオリジナル手すきはがきを掲げて記念撮影を行い、講習会を終了しました。



模型を使った手開き指導



世界で1枚のオリジナルはがき

# 牛乳パックリサイクル出前授業



子どもたちの学びの場に。  
毎年好評の「出前授業」を  
全国の小学校で開催。

2018年も全国の小学校で、全国パック連と連携して「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催しました。

## 出前授業講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」  
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パックン探検隊」
- ・体験 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

## 【東京都 大田区立都南小学校】8月7日

多摩川に近く自然に恵まれた大田区立都南小学校の「サマーわくわくスクール」で4～6年生30名と保護者3名を対象に出前授業を実施。学校の教育目標にある「よく考え行動する子、終わりまで仕事をやりぬく子」のように、手すきはがきづくりでは紙パックから再生された高品質パルプに初めて触れて柔らかさと白さに驚き、全員がオリジナル手すきはがきを完成させました。



手すきはがきづくりに興味津々

## 【山梨県 南アルプス市立白根百田小学校】8月30日

西に南アルプス、南に富士山を一望する南アルプス市立白根百田小学校では、4年生2クラス49名を対象に出前授業を行いました。手すきはがきづくりを終えた後、7月の西日本豪雨で被災した広島市の小学校に子どもたちからお見舞いのはがきを送ることになり、先生からは「今日学んだ紙パックリサイクルについて、おうちでも伝えてください」との指導がありました。



平井代表の話真剣に聞く児童

## 【広島県 広島市立八幡東小学校】9月11日

「かしく やさしく たくましく」を「みんなの目標」に掲げ、創立40年目を迎える八幡東小学校の4年生4クラス106名を対象に実施した出前授業。手すきはがきづくりでは、子どもたちは初めて触れる牛乳パックのパルプに驚き、保護者の皆様もはがきづくりの方法について積極的に質問し、「家庭でもやってみます」とリサイクルに前向きな姿勢を示されていました。



授業を受けるたくさんの児童・保護者

## 【愛知県 弥富市立白鳥小学校】9月26日

自然豊かな環境の中、白文鳥の産地であることに由来する校名の白鳥小学校。出前授業には4年生の児童47名と教諭2名の計49名が参加しました。前半の講義では初めて聞く「リサイクルのお話」に驚き、後半の手すきはがきづくりでは世界に1枚のはがきを作った喜びで、みんな自慢げな笑顔でした。「今日あったことを家で話すんだ」という嬉しい声も聞くことができました。



出来上がった手すきはがきと記念撮影

## 【福岡県 北九州市立星ヶ丘小学校】10月4日

環境教育として「プルタブ収集やペットボトルのキャップ収集に努める」を積極的に実践する、リサイクルへの意識の高い星ヶ丘小学校。出前授業は4年生2クラス76名を対象に行いました。講義終了後の手すきはがきづくりでは、児童たちは高品質な再生パルプに直接触れて柔らかさと白さに驚き、はがきが仕上がっていくにつれ、歓声や驚きの声が上がりました。



パルプの柔らかさと白さに驚き

## 【愛知県 尾張旭市立本地原小学校】10月10日

昭和29年開校と長い歴史を有する本地原小学校の出前授業は、4年生94名を対象として体育館で行いました。ちょうど体育の時間だった5年生は昨年体験した出前授業の内容をよく覚えてくれており、子どもの頃からリサイクルの意識を持ってもらうことの重要性を改めて認識しました。手すきはがきづくりでは、牛乳パックからはがきができる工程を皆とても楽しんでいました。



みんなそろってのはがきと記念写真

## 【東京都 多摩市立諏訪小学校】11月2日

「強く かしく たくましく」が教育目標の多摩市立諏訪小学校では3年生57名を対象に出前事業を行いました。紙パックを「洗って、開いて、乾かして」トイレトーパーなどに再生できることを知り、手すきはがきづくりを体験した子どもたちの表情からは、環境・リサイクルへの関心の高さが感じられ、現地に出向いて活動することの大切さを確認できた1日となりました。



オリジナル手すきはがきとともに記念撮影

リサイクルの大切さを啓発。  
紙パックの手開きや紙すきを  
体験しました。

【エコライフ・フェア2018】6月2日、3日

毎年6月の環境月間に実施されている環境省主催のイベント「エコライフ・フェア」。容環協は2007年からの参加です。さわやかな晴天に恵まれ、会場の代々木公園イベント広場を訪れた来場者は4万3,000人強と、昨年より約3,000人増。環境について楽しく学習・体験する場となりました。

容環協ブースでは、紙パックリサイクルのパネル説明、クイズ、手すきはがきづくりなどを実施。開始10分後には満員状態となり大盛況でした。また、NHKの取材も舞い込み、ホームページで情報が拡散されました。テントブースへの来場者数は2日間で805名と、3年連続で記録を更新しています。手すきはがきづくりやパネル説明に熱心な外国の方や環境について学ぶ大学生などの参加もあり、今後の紙パックリサイクルの発展に希望を感じました。



大にぎわいの容環協ブース



NHKが取材に訪れました

連日盛況の容環協ブース。  
国内最大級の環境展に  
出展しました。

【エコプロ2018】12月6日～8日

「エコプロ」は、1999年から開催されている日本最大級の環境展示会です。2018年で20回目の開催となり、容環協は今回も牛乳パック再利用マーク普及促進協議会と共同で出展しました。

展示会全体の来場者数は162,217名、そのうち延べ1,794名が容環協ブースに足を運んでいただきました。ブースでは紙パックの原料やリサイクルルールなどを、現物のサンプルや「もったいないものがたり」パンフレットを活用したスマホ対応アプリによるAR(拡張現実)体験などを通じて楽しく学んでいただきました。さらに、「牛乳パック手開き体験」のワークショップや全国パック連の協力による「手すきはがきづくり体験」を行い、様々な展示や活動を通じて、紙パックのリサイクルへの理解と協力を広く訴える機会となりました。



ワークショップ風景



卓上展示での説明

松澤 匡さんの作品  
「牛乳パックバッグ」が  
見事最優秀賞に。

18回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2018」には全国の小学校より2,353作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞作品8点が選ばれました。おめでとうございます。

#### 《受賞作品》

- ◆最優秀賞 『牛乳パックバッグ』  
松澤 匡さん(川越市立霞ヶ関東小学校5年)
- ◆優秀賞 『牛乳パックのパンダ』  
稲垣 優衣さん(さいたま市立浦和別所小学校4年)
- ◆優秀賞 『水車小屋』  
山本 幸奈さん(桑名市立多度青葉小学校4年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞  
『ぼくのエコ地球儀』  
幸田 悠生さん(京都市立御所南小学校4年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞  
『お姉ちゃんのピアノ』  
牛本 敦也さん(呉市立長迫小学校5年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞  
『モザイクアートリサイクルポスター』  
日野 琴美さん(高山市立江名子小学校3年)
- ◆日本乳業協会賞  
『牛乳パック日本丸』  
安藤 心音さん(岐阜市立長良東小学校6年)
- ◆審査委員会特別賞  
『牛乳パックマグネット』  
角田 彩音さん(横浜市立盲特別支援学校6年)  
團原 昇汰さん(横浜市立盲特別支援学校6年)  
高瀬 勇太郎さん(横浜市立盲特別支援学校4年)  
武藤 春暖さん(横浜市立盲特別支援学校3年)  
安東 奏音さん(横浜市立盲特別支援学校2年)

最優秀賞は埼玉県の小学校5年松澤 匡さんの作品「牛乳パックバッグ」でした。昨年の優秀賞「牛乳パックシェーズ」をさらにスケールアップし、大作に挑んでくれました。紙パックを細く切って編み上げるという、独自の技術も完成度を増し、さらに今回は丈夫な紙パックの特性を生かし、またパーツをうまく利用するなどすばらしい作品をつくってくれました。

受賞作の表彰式は「エコプロ2018」の容環協ブースにて12月8日に行われ、審査委員長の東京国立博物館・銭谷館長、実行委員会の容環協・城端会長をはじめ審査委員の方々から、受賞者にそれぞれ賞状・盾・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学校向けホームページ「牛乳パック探検隊」で紹介されています。



最優秀作品  
「牛乳パックバッグ」  
松澤 匡さん



最優秀賞受賞の松澤 匡さん



容環協ブースで行われた表彰式

## その他の活動



全国パック連との連携で  
商業施設における啓発にも  
取り組みました。

## 【商業施設「フードスクエアカスミ龍ヶ崎中里店」】2月3日

2017年12月に新しくオープンした店舗にて、「紙パックリサイクル促進キャンペーン」を開催しました。

カスミは、茨城県を中心に千葉県、埼玉県、栃木県、群馬県、東京都に合計184店舗を展開する地域密着型のスーパーマーケットでイオングループの一員です。

龍ヶ崎中里店は店頭で専用の回収ボックスを設置し、ペットボトル、食品トレイ、アルミ缶、スチール缶、牛乳パック、古紙などを回収しています。回収後は自社のリサイクルセンターに集めて選別・圧縮を行い、専門のリサイクル業者に引き渡して再生するという環境・社会貢献活動を行っている店舗です。

当日は寒波の到来のためか、初めのうちはお客様の入りかと思わしくありませんでしたが、お昼頃になると親子連れを中心にお客様が増加し、牛乳パックのパルプを使っての手すきはがきづくり体験(75名)や、牛乳を飲んで手開き体験(70名)、牛乳パックリサイクルに関するクイズ(73名)に積極的に参加していただきました。家庭および小学校での紙パックリサイクルについてや、店舗の専用回収ボックスに集められた紙パックがどのように再生されていくのかについて、お客様とじっくりお話しすることができました。

このイベントが今後も継続的に行われ、北関東地域に新しいリサイクルの環が広がるきっかけになることを期待しながら店を後にしました。



親子でクイズに挑戦です

## リサイクルキャンペーンの内容

- ・視聴 DVD「牛乳パックン探検隊」
- ・体験 牛乳飲んで「牛乳パック簡単手開き」  
「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
- ・パネル 「森林管理～原料パルプのすばらしさ～紙パック回収とリサイクル」の流れ
- ・イベント 使用済み紙パック6枚とボックスティッシュ交換会

## 【商業施設「イオン相模原ショッピングセンター」】3月17日

相模原市協賛のもと、「紙パックリサイクル促進キャンペーン」を開催しました。

相模原市は「相模原ごみDE71大作戦」という、ごみの減量化・資源化を推進する活動を行っており、同市におけるイベントは2017年夏の「紙パックリサイクル講習会」に続いて、今回もイメージキャラクター「分別戦隊シゲンジャー銀河」の中からペーパーピンクが応援に駆けつけてくれました。

会場となった1階パブリックスペースは十分なスペースが確保され、来場されたお客様にはゆったりと各コーナーを体験していただきました。会場は、ボックスティッシュ交換コーナーを入口に、手すきはがきコーナー(180名参加)、クイズコーナー(97組参加)、牛乳を飲んで手開き体験コーナー(140名参加)と時計回りに配置し、すべてを体験されるお客様も数多くいらっしゃいました。相模原市の学校では給食牛乳パックの手開き、リサイクルが行われているため、子どもたちは手慣れた様子で手開きを進め、日頃の啓発の大切さを実感いたしました。

相模原市のホームページでは、紙パック6枚でボックスティッシュ1個に交換する旨を1か月前から告知しており、交換コーナーでは29組の来場者から合計365枚の使用済み紙パックを受け取りました。今後も各自治体と歩調をあわせた活動をしていく重要性を認識する一日となりました。



手すきはがきづくり体験

スマートフォンによる  
新しい啓発コンテンツを  
制作しました。

## 【AR(拡張現実)の応用】

「プラン2020」の普及啓発事業の一環として、紙パック回収率向上に向けて効果的な新しい取組であるスマートフォンによる啓発コンテンツを制作しました。

若者からお年寄まで幅広く普及しているスマートフォンにおいてAR(拡張現実)技術を応用し、冊子「「もったいない」ものがたり」の表紙にかざすと牛乳パックンが起き上がり、画面をタッチするとランダムに3つのパターンで動き出します。牛乳パックンと一緒に記念撮影することもできます。

画面のボタンを押すと「牛乳パックン探検隊動画」や「容環協ホームページ」に移り、さらに詳しい情報を得ることができます。

容環協ホームページには専用アプリのダウンロード方法など告知説明を掲載しています。

エコプロ2018の会場においても告知し、試していただきました。今後、商業施設などでのリサイクル講習会に展開し、紙パックリサイクルの啓発を推進します。



AR(拡張現実)の楽しみ方と画面イメージ

ごみ袋を用いた  
啓発活動に取り組みました。

## 【町田市のごみ袋へ広告掲載】

普及啓発活動の一環として2017年は都バスでのラッピング広告を試みましたが、2018年はごみ袋を媒体として選択しました。ごみ袋への広告を募集している自治体は全国にいくつか存在します。その中で、首都圏であるために効果を確認しやすい、市内19万世帯が対象となり効果が期待できる、1か月単位での契約である、などの理由から町田市を選択しました。

町田市のごみ袋は数種類あり、最も使用されている20ℓサイズが10枚入った外袋は縦25cm×横20cmの大きさです。その下部に縦3.5cm×横13cmの広告スペースが設けられており、そこに「紙パックは大切な資源です 回収ボックスまたは古紙回収の紙パック区分へ」というメッセージを印刷しました。ごみ袋は市内外約500か所の店舗で11月中旬から販売され、1か月分に相当する10枚入り63,000パックが町田市民の皆様へ届けられました。

住民の皆様へのアピール手法の一つとして、今後とも検討していきます。



町田市のごみ袋へ広告掲載